

阪神高速道路株式会社入札監視委員会(2023年度第4回)審議概要

開催日及び開催場所	2024年3月26日(火) 阪神高速道路株式会社社会議室		
委員	石丸鐵太郎(神戸中央法律事務所 弁護士) 古田 均(大阪公立大学 特任教授) 武田 邦宣(大阪大学大学院法学研究科長・法学部長・教授)		
審議対象期間	2023年10月1日～2023年12月31日		
抽出案件	4件(総件数21件)		
(内訳)	工事	一般競争(政府調達協定対象)	0件(総件数0件)
		一般競争(政府調達協定対象外)	1件(総件数4件) (案件①)
		技術提案・交渉方式	0件(総件数0件)
		指名競争	0件(総件数0件)
		随意契約	1件(総件数1件) (案件②)
	建設コンサルタント業務等	1件(総件数11件) (案件③)	
	物品等の購入等	1件(総件数5件) (案件④)	
委員からの意見・質問、それに対する回答	意見・質問	回答	
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	意見・勧告なし		

意見・質問	回 答
<p><b>【案件①】</b> 「交通流収集装置設置工事（2023-山手・新）」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技術評価の品質確保体制評価点の差は何か。</li> <li>「品質確保体制評価」は、低入札だと品質が落ちるといふ考えか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入札価格が調査基準価格を下回ると低入札調査の対象となります。この場合、品質確保体制の評価は調査基準価格を頂点に、30点満点から減点していく評価方法となるため差が出たものです。</li> <li>価格が安いと品質も落ちるだろうとの視点から「低入札調査」が導入されました。以前は契約制限価格の80%程度であったが、現在では92%まで上がっており、「低入札」と「品質確保・・・評価」の関連性が馴染まない名称になっておりますが、国でもこの調査名のため、当社でもこの調査名を使用しております。</li> </ul>
<p><b>【案件②】</b> 「中島パーキング改修工事(2023-岸)」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>	
<p><b>【案件③】</b> 「橋梁基礎の支持力に関する解析検討業務」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロポーザル評価の企業能力の差は何か。</li> <li>地盤が良い場合は基礎の支持力等の解析はしないのか。</li> <li>この業務では鋼管矢板基礎だけ分析するの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各社から提出いただいた資料に「同種業務実績」がございます。当該資料について、当社が求める同種業務実績と認められなかったものがあり、「企業能力」と「業務の実施体制」に差が出たものです。</li> <li>当社が求める地盤の強度基準値を明らかに超えていれば解析はいたしません。ボーリング調査は必ず実施しますので、その数値で一段階目の判断をいたします。</li> <li>鋼管矢板基礎とケーソン基礎の両方を比較、</li> </ul>

か。

**【案件④】**

「建設技術展 2023 近畿及びハイウェイテクノロジー 2023 における企画運營業務」

- ・ 企画競争参加企業 5 社は会社が求める業務実績があったということか。

解析いたします。施工場所は鋼管矢板基礎が多く採用されているため、業務内容を「鋼管矢板基礎の解析」としているものです。なお、今回は基礎構造委員会において、地盤、地質の不確定要素が多く、複雑な地質状況のため解析したほうが良いとの結論に至り解析検討するものです。

- ・ 1 契約あたり 300 万円（税込み）以上の業務実績があったため、競争参加資格要件を満たしておりました。なお、受注会社は、過去において当社での実績もありました。

以 上